

第18号

本小の教育「授業改善研」

5年互授

◦本小授業改善『主体的・対話的な深い学び』

今回は、5学年・佳子先生の「互見授業」である。これまでタイミングが合わず授業参観ができなかった。スタートの学級びらき（授業びらき）の際に少しだけ参観させていただいたが、素晴らしいと感じた。それ以来、何度かチャンスを伺っていましたが、今回にやっと叶い嬉しく思っています。5学年会にて「教材研究」「授業づくり」を行い、学年職員全員で関わっていることにも感謝。**3校時目（2組・和幸） 5校時目（1組・誠子）**の参観も含めて今回の「互見授業」の感想などを述べたいと思います。5学年会の皆さんご苦労様。

■ 5年 3組（算数）「高良 佳子」先生 2校時目 [互見授業]



【児童の手（学習規律）】

【教室の色（支持的風土）】

【教師の目（教師の姿勢）】

【児童観】「子供の様子」

●1～3組の子供達全体的に云えることは、「三角形の内角の和＝180°」既習事項（知識）を活用している。素晴らしい！！
●更に、直角三角形や二等辺三角形なども持ち出し立ち向かう姿勢も又、素晴らしい！
●四角形に対角線を入れ、三角形を2つ、或いは3つ、4つと区切るところまでは良いが、直角三角形や二等辺三角形に似ていることから全て角度を記入し、計算している。
●具体的な数値を挿入することで、内角の和を活用している。計算により角度を求める

【教材観】「学びの様子」

●まず、教材単元「四角形の内角の和」を求める問題。三角形の内角の和が180°である事（既習事項）を用いて考える。

辺の数	三角形の数	内角の和
3	1	$180 \times (3 - 2)$
4	2	$180 \times (4 - 2)$
5	3	$180 \times (5 - 2)$
6	4	$180 \times (6 - 2)$
7	5	$180 \times (7 - 2)$
↓	↓	↓
n	n-2	$180 \times (n - 2)$

●算数の良さは、一般化。算数・数学の帰納法的発想も教師の中では持っておく。
●「帰納法」とは、いくつかの具体的な性質から一般的な性質（法則）を見出すこと。
●「演繹法」とは、一般的・普遍的な性質を前提に、より個別的・特殊な性質（結論）を見出す方法のことを云う。

【主体的・対話的、深い学び】を創る。

●「対話力」を育てる為の「授業改善」として
①「自分の考えを持たせる」（自力解決）
②「自分の考えを発表する」（支持的風土）
③「他人の考えを読む」（異意見も受入）
④「他人の考えを認める」（共感的態度）
⑤「他人と学び合う」（共学的態度）
●全体へ発言できない子供は、班のなかで発言
●班での内言を外言（全体）へ繋げて、自信を
●班内での「学び合い」へと仕向けていく事も
●教師同士も「教材研究」などで「学び合い」

【感想】

「三角形」が「図形の基本」、多角形となり、円となる…。その「思考」を、見える化する！
○「同じ単元の、同じ本時の、同じ授業プランで 授業実施しても、それぞれ『担任の持ち味』が出ていた」
○「学年スタッフのチーム・ワーク、協働性、授業づくりへの向上心、子ども達への愛情深さを感じました」
○「子供の班編制、ホワイトボードの準備、めあて、まとめ、振り返りも発表・記入要領が提示されていた」
○「多くの子供は、三角形の角度（30, 60, 90）を決めつけて、具体的な数値で求めようとしてた。指導の工夫」
○「辺3つで三角形となり、薄い二等辺三角形を貼り合わせると「円」に近づく。立体へ、球体へと発展する」
○「算数・数学の "良さ" 便利さ、美しさ、一般性、普遍性、楽しさ、感動を、教師も味わい、子へ伝える」

校長より